



## 「復興掲示板」から「協働まちづくり通信」へリニューアル

これまで復興掲示板を掲載していた本ページでは、平成30年7月豪雨災害の経験の中で生まれた「多様な主体による協働」をさらに発展させていくため、新たに「協働まちづくり通信」をスタートし、協働のまちづくりのための取り組みや団体の紹介などを行っていきます。

※多様な主体とは、市民、行政、自治会、NPO・ボランティア団体、企業・団体、外部人材、中間支援組織などのことです。

## ■ 宇和島市民協働のまちづくり推進指針を改訂しました

平成30年7月豪雨災害後の復旧・復興の中で、多くの皆さんや団体との協働の必要性が再認識されました。また、複雑化・多様化する地域課題に対処していくため、令和4年7月に「宇和島市民協働のまちづくり推進指針策定委員会」を立ち上げ、各方面から幅広い意見を聴取し、令和5年2月に改訂しました。



## ■ 宇和島市民協働のまちづくり推進指針とは

多様な主体が、互いに信頼し合える関係を築き、それぞれの特色や個性を活かしながら、協働してまちづくりを進めていくための基本的な考え方（協働の考え方や協働を推進する体制づくりなど）について、イメージ図などで分かりやすくまとめたものです。



愛媛大学 社会連携推進機構  
教授 前田 眞 さん

八幡浜生まれ、松前町在住。各地で地域連携に関する取り組みに携わり、宇和島市民協働のまちづくり推進指針策定委員会の委員長も務めました。

協働のまちづくりとは

前田眞

宇和島市では、平成30年7月豪雨災害を経験し、行政だけでなく民間による被災者に寄り添う形での復旧・復興が行われてきました。そこでは、行政の支援だけでなく、社会福祉協議会をはじめNPOやボランティア、企業および個人など多様な主体による支援活動が行われました。

加えて、被災された方々自身が同様に被災された方々を支援する（助け合う）といった、まさしく多様な主体による協働を体験しました。このような中、これらの活動を担う多様な主体

をコーディネートし、課題解決に向けてそれぞれの得意を活かすまちづくりが行われてきました。

こういった復興まちづくりの経験は、まちづくりに対する意識を激変させたと言えます。

協働のまちづくりとは、災害時だけでなく普段から、目の前にある複雑化、幅転化された地域課題を解決し、すべての人が住みやすい宇和島市にいくために、当事者だけでなく、共感を持った多様な主体がよってたかって取り組むまちづくり活動です。